

# 庭野平和財団 活動助成 報告書

コード番号 08-A-062

財団法人 庭野平和財団  
理事長 庭野欽司郎 殿

平成 20 年 9 月 28 日

申請団体：富山国際大学国際協力サークル

代表者氏名	ふりがな	印	役職名	生年月日
才田春夫	(さいだ はるお)	印	教授 (サークル顧問)	1953 年 4 月 16 日 生

申請団体住所 〒 930-1292  
富山県富山市東黒牧 65-1

Tel: 076-483-8000

Fax: 076-483-8008

E-mail: [saida@tuins.ac.jp](mailto:saida@tuins.ac.jp)

- 1 事業名称 サモア女性自立支援プロジェクト
- 2 実施日時 平成 20 年 8 月 22 日 ～ 9 月 7 日
- 3 実施場所 Courier of Samoa Training Center 、Levi Saleimoa 村 サモア独立国
- 4 参加人数 日本側 11 名 (その内は社会人ボランティア 2 名)  
現地側： 18 名

## 5 事業目的、内容 及びその効果

本事業は、現地 NGO「Courier of Samoa」との共同事業として、現地の人たちに技能訓練を行うことを目的としている。本プロジェクトは当初、女性を対象とした洋裁トレーニングからスタートしたために標記のような事業名になっているが、訓練コースを多様化した現在では男女を問わず受け入れている。今回は洋裁、ミシン修理、料理、コンピュータ指導に加え、プロジェクト紹介ビデオの制作も実施してきた。

### ○「現地指導者を対象とした洋裁指導」

我々に同行してくれた社会人ボランティアの指導のもとに女子学生 2 名が指導補助を務めた。主な指導内容は以下の 3 点である。

#### 1) 型紙おこし

現地の人々はこれまでに我々が派遣した日本人の指導で、型紙を使って洋服を縫う技術を覚えたが、自分で型紙をつくることは出来なかった。そのため、橋本氏が型紙のおこし方、つまり図面の描き方、サイズ変更などの指導を行った。現地の人々の要望に答えてワンピース、アロハシャツ及びズボンの型紙を作成した。ズボンの型は曲線が多いため、この種の型紙作成を現地の人たちが独自につくるようになるには、もう少し指導する必要がある。しかし、単純なつくりのワンピースの型紙作成が可能になるだけのトレーニングを行い、基本的な部分はマスターしたと言える。



#### 2) 縫製指導

ワンピース、アロハシャツ及びズボンなどを実際に作りながら縫製指導を行った。指導のポイントとなったのは、裁断、ボタン穴かがり、ファスナー取り付け、ポケット取り付けだった。橋本氏が説明を行い、アシスタントの日本人学生たちが実際に縫製してみせた後、現地の人たちに実際に縫わせた。間違いやすい点を注意しながら丁寧に縫い上げることを心がけさせた（この点が雑なサモア人に最も欠けている点である）。



### ○ミシンの保守点検と修理指導

これも日本の社会人ボランティアの協力を得て実施した。講習内容は業務用本縫いミシン

使用法の説明と糸通しなど基本練習に加え、メンテナンス指導として分解掃除、針と釜のタイミング合わせ、針、針板、釜などの部品取替え&調整などの訓練を繰り返し行った。また、オーバーロックミシンはTuanai村では初導入なため、針の取り付け、糸通しなどの訓練を入念に行った。加えてルーパー破損による目とび対策や刃の交換などのメンテナンス指導を行った。メンテナンス指導は、我々が持ち込んだ業務用ミシンだけでなく、NGO 保有の家庭用6台と NGO メンバーが持ち寄った個人所有ミシンを使って、分解調整や修理を行いながら指導を行った。4日間に修理したミシンは鉄砲ミシン1台、足踏みミシン8台、電動ミシン2台にのぼった。



## ○コンピュータ指導と遠隔指導法のテスト

現地のトレーニングセンターには数台のデスクトップがあるが、何れもマイクロソフトのサポート切れになった windows95 マシンだったため、今回、中古だが windows XP マシンを1台提供し、インターネット接続（メール送受信を含む）、OpenOffice 講習、skype ビデオ通話テストなどを行った。現地のコンピュータ担当者1名のみがインターネット（メールを含む）を利用しているが、他のスタッフはコンピュータ利用暦がほとんどなかったため、1) NGO スタッフ及び近隣の子供たち数名にインターネット利用とワープロについて講習を行った。ワープロはサモアで最も一般的なマイクロソフトの Word を使うつもりだったが、高額だったため、これと互換性があってインターフェイスが似ている無料の OpenOffice を使って指導した。ワードやエクセルを使えることが就職に有利になるので、講習希望は多い。今後は初心者用～上級者までのクラス別講習会マニュアルを作成して、実用的な指導を行う必要がある。



### 2) Skype ビデオ通話の設定と通信テスト

縫製やミシン修理などのアドバイスを、インターネットを使って日本から行うための設定とテストを行った。日本とサモア双方のコンピュータに skype をインストールして、ビデオ通話を行えるように設定した。音声通話は全く問題なく長時間通話が可能だった。しかし、ビデオ通話には問題があることが判明した。ビデオ通話そのものは可能で、お互いの顔や縫製作業を映し出すことは出来た。しかし、サモア側の通信回線が細いため、何度

も回線切断が起こり、このままでは実用に向かないと判断した。このため、インターネットを利用した遠隔指導を行うには、回線を太くしたり解像度の低いカメラを使ったりの工夫が必要である。サモアでもブロードバンドが導入され始めたので、経費の問題がクリアできれば改善は可能である。ビデオ通話による技術指導は将来的には可能になるであろう。



### ○教育用及びプロジェクトプロモーションビデオの制作

これも計画段階では予定に入ってなかったが、出発前に現地側との今年度の取り組みについて協議する中で、教材としてのビデオや本プロジェクトの活動を国内外に紹介するためのビデオ制作を行うことを急遽決定した。そのために、当初購入予定のなかったハンディビデオを本助成金で購入した。現地滞在期間中は現地側スタッフと主にプロモーションビデオの制作協議と収録に多くの時間を割くことになった。収録したフィルムの編集は現地の NGO スタッフ 3 名が担当している。彼ら 3 名ともメディア関係企業で本業をもちながら、ボランティアとして本事業に関わってくれている。そのため、本報告書に添付すべく編集作業に取り掛かっていたが、間に合わなかったため、今回は現地のテレビで放送された NEWS 番組を CD にコピーして添付することとした。

尚、ビデオ機材は現地側で保管し、今後の活動記録の作製や教育ビデオの作製などに活用することとした。また、将来、インターネットのブロードバンド通信回線が開通すれば、日本側からの遠隔指導の道具としても活用を予定している。ビデオカメラはスカイプ用の web カメラでは送ることが出来ない鮮明な映像を伝送することにより、特にミシンなどの機材修理指導に有効である。また、通信内容を記録することも可能なため、技術者のトレーニングに威力を発揮するであろう。

### ○料理指導（栄養改善）

サモアでは肥満とそれが引き起こす成人病が大きな問題になっているため、サモア政府は栄養指導や運動奨励を行っている。これを受けて Courier of Samoa Training Center では料理コースを設け、村人の栄養改善に貢献している。そこで、今回プロジェクトに参加した学生たちが、野菜摂取量が少ないサモア人に日本食（お好み焼きと豚汁）の紹介を行った。お好み焼き店で 4 年間アルバイト経験を持つ学生が中心になって 30



人分を1日かかりで作った。現地の材料を駆使して作ったお好み焼きも豚汁もサモアの人々の口にあったようで、お替りをする人や友達や家族に持って帰るひとが出るほどに好評だった。サモアでの新たな産業創出の可能性を感じた。

### ○音楽コースでの指導補助

トレーニングセンターでは8月から3か月の予定で毎週1回、音楽教室も開催しており、定年退職した元小学校教員をインストラクターとして雇用している。私たちはこれまでに4台の音楽キーボードを提供して、同コースのサポートをしてきた。今年も現地からの要請に基づいて日本から中古のキーボードを持ち込み、ピアノ経験のある学生が、現地のインストラクターを補佐する形で子供たちの指導を行った。



### ○サモア大学学生らとの文化交流

サモアでの活動を機に、サモア大学の学生らとの文化交流を企画した。国際交流を行うには、相手国の人と文化を理解することが最も重要だと考えるからである。そこで同年代の人たちが学ぶサモア大学観光学部の日本語クラスを訪問し、20名のサモア人学生たちとダンス、歌、手芸工作などを2日間にわたって教えあった。日本側はよさこいと島唄、サモア側はサモアダンスなどを相互に披露と共演を行い、相互理解を深めた。帰国後の現地情報によると、サモア大学の学生たちは卒業式で「よさこい」を披露すべく練習に励んでいるとのことである。新たな国際協力の芽が着実に育っていることを確信した。



## 6 事業実施効果

1. 現地の人たちが、洋裁には「正確さ」と「緻密さ」が必要だということを認識して、実際に心がけて縫製に取り組むようになったことは大きな進歩である。指導者のレベルが着実に上がっている。
2. インターネットのテレビ電話機能を利用して日本からの遠隔指導の可能性が見えてきた。
3. サモアと日本を結ぶ若い世代が増えている。サモアでのボランティア経験をした学生

たちは、大学際などの機会を利用して自分たちの活動やサモアの人々の暮らしを紹介している。このような発展途上国理解者が増えることによって日本の国際貢献活動が活発になる。

## 7 今後の方針

本事業の目的は村人への洋裁技術の定着と製品販売による現金収入の道をつけることにある。現地 NGO が熱心なこともあって、短期間の間に大きな進歩を果たしている。しかし、人材育成には息の長い取り組みが必要である。今後は、技術の定着促進に努力するとともに、トレーニングセンター卒業生による製品の商品化や販売ルートの確立などにも支援を展開していきたい。また、インターネットを利用して遠隔サポートもしていきたいと考えている。

また、ボランティア活動による人と人の交流が新たな国際関係を築く基礎となることを考えると、今後も一人でも多くの仲間を現地に送り込みたいと考えている。